

大きな空と 広い大地のあいだで 考える

秋の数日、十勝に滞在した。帯広駅から広尾に抜ける国道236号は、大好きな中札内や更別、大樹をつなぐ道路だ。帯広の住宅街を抜けるとやがて両サイドには畑の風景が広がってゆく。大きく広がる空と大地。そのあいだに挟まって、おいしい作物が生み出される、開拓者の想いが残るとても豊かな場所だ。

滞在中、時間ができたので中札内美術村と六花の森へ出かけた。秋に訪れたのは初めてで、落ちていく枯れ葉の上を踏みしめながら歩いた。点在するそれぞれの美術館を巡り、休んではまた歩く。そして、六花の森に新しくできた安西水丸美術館を訪ねた。尊敬するイラストレーターであり先駆者であった安西水丸さん。シンプルで素直で余白になにか感じるものが詰まっている絵は、どの作品も心地良さそうに展示されていて、とても楽しい空間だった。

その安西水丸美術館の横には、風景をゆっくり楽しめるように椅子が並んでいる。座った目線の先には丘があり、その上には「考える人（ロダンより）」（作・板東優）がある。思わず座ってそれを眺めて考えてみた。

翌日は更別のさらべつカントリーパークへ。コテージ群の真ん中にある広い広場で行われたイベントに参加した。広い芝生の上で、たくさんの人たちが訪れ、のんびり1日を過ごしている。その風景もまさしく大きな空と広い大地のあいだに、私たち人間も挟まれている。

それを見ていたら、草も樹も人もみんな、空と大地の産物だと思った。丘の上の考える人はきっとそれを示しているのかもしれない。だから、自然に敬意を払い、空と大地の恵みに感謝し、人は試行錯誤しながら懸命に生きるべきと教えてくれているようだ。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。また、新作絵本「はたけのごちそうなーんだ？ くだもの」（アリス館）が4月19日に出版。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



中札内村の
そのままの豆



冷凍のえだ豆!!
めちやくちあじい
道の駅などで販売してる

更別村のヒョウソウ
Tulka (ツカ)

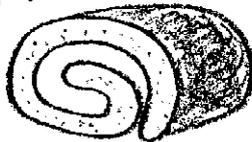


大人気
石窯で焼
きた



さらへつ
チーズ
ブルーチーズ
が絶品!

ふっかふかの
生地がスリッ
まるよロール



更別村の
お菓子のニシヤマ*

十勝にはおいしい
ものがたくさん!



今回は
お土産